



千葉大学医学部同窓会報

第107号

題字 鈴木五郎

編集発行者

千葉大学医学部

みのはな同窓会報編集部

〒260 千葉市中央区亥鼻1-8-1

千葉大学医学部内

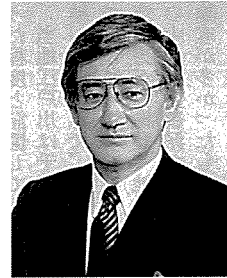
みのはな同窓会

電話 (043) 222-7171 内線5026

教授就任の挨拶

千葉大学医学部救急医学講座

平澤 博之(昭41卒)

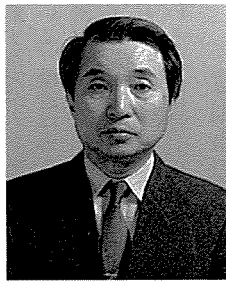


未だその歴史も浅く、学問的体系も十分には整っておらず、また一方ではクリティカルケアを中心としており、諸外国とは異なった形に発展しつつあります。このような現状を踏まえた上で今後教室を構築し、本邦における救急医学の学問的体系を整えるのに貢献しつつ、卒前卒後の教育に全力を注ぐ決意でおります。

(六面に続く)

東京女子医科大学消化器外科科学教室

高崎 健(昭42卒)



念願かないまして救急医学講座が本学にも平成六年度に開講となり、平成7年1月1日付でその初代教授を拝命いたしました。開講に向けこれまでのご努力下さいました歴代の医学部長、病院長、教授会のみなさん、事務長はじめ関係各位に心より御礼申し上げます。

全ての国立大学医学部附属病院には以前から救急部が設置されておりましたが、それはとうてい地域医療界のニーズ、卒前卒後の教育、将来をみすえの基礎的、臨床的研究などの任務や責務を遂行できる規模のものではありませんでした。そのような中、本学に阪大、東大、東北大につぎ全国国立大学第四番目の救急医学講座が開講となりましたのは、誠に意欲深かったと思っております。

救急医学は本邦においては、大で新しい卒後の教育の制度

として6年間の実地医療技術訓練するための医療練士制度をお始めになっていましたのでその3期生として入局しました。6年間の医療練士研修生としてカリキュラムに沿った卒後教育を受け、医療練士の称号を獲得、以後20年間スタッフとして消化器病全般に亘って多くのさまざまな症例を経験して参りました。特に近年は肝臓癌症例を多く扱うようになり現在まで約900例の切除を経験してきました。いち早くセンター方式として内科、外科が一体となり教室の壁を作ることなく患者

中心の医療を実践すべきであるとした中山先生の先見性には敬服するとともに、感謝申し上げております。当センター外科は中山教授、遠藤教授、羽生教授と歴代千葉大学出身者によって引き継がれて参りました。現在東京女子医科大学におられる千葉大学出身の方々は当消化器病センターには消化器外科に羽生富士夫教授を始め、鈴木博孝教授、山田明義教授、鈴木茂教授、中村光司教授、消化器内科に林直諒教授、久満重樹教授がおられ、その他に第2外科浜野恭一教授、麻酔科鈴木英弘教授、整形外科伊藤達雄教授、産婦人科小林正雄教授、小児科村田光範教授がおられます。その他約50名の方々が現在勤務されております。本学の性質上男性はすべて他校出身者であるわけですが、いろいろな科に同窓の先生がおられるので気軽に相談できるとい環境は日常臨床で大変心強く感じています。今後とも宜しくお願い申し上げます。当大学でも学生教育に関しては改革が進行中であり、近い将来にその実績が示されることと思われませんが、私自身の受けてきた千葉大学の教育は大変に良いものであったと思ひ返しにしております。母校の発展を樂しみに思いつつ負けないようにならばってやって参ります。

名尾名誉会長へ

記念品贈呈

去る六月二十五日開催のゐのはな同窓会総会に於て名誉会長にご推挙申しあげた名尾良憲先生に先生の二期六年に亘るご苦労により、同窓会活性に特段のご貢献をいただいたことに對し会員一同記念品を贈呈してそのご功績を讃えたいと存じます。贈呈は来る一月二十八日東京ゐのはな会の席で行われる予定です。(井出源四郎・記)

最終講義のお知らせ

○大藤正雄教授

日時 平成7年2月7日(火)

午後3時30分

場所 附属病院第一講堂

演題 「画像医学の過去・現在・未来」

○平山恵造教授

日時 平成7年2月14日(火)

午後3時30分

場所 附属病院第一講堂

演題 「若年性一側上肢筋萎縮症(平山病)」

「発見から治療まで」

なお、大藤正雄、平山恵造、

両教授の退官記念式典は、3

月11日(土)午後2時より、千葉

大学医学部附属病院第一講堂

においてとり行われる予定です。

各地るのはな会だより

江戸川あのはな会



平成6年6月16日東京あのはな会江戸川支部が恒例のように新小岩「有田」で行われた。今回は母校より産婦人科の関谷宗英教授と形成外科の

一瀬正治教授のお二人をお迎えし会員22名が出席した。毎回教授をお迎えしてお話を伺うと新しいこと、感銘を受けることがあるが、今回特に印象に残ったのは、現在の大学の講座の中ではやるべきことが沢山あり過ぎて、ひとりの教授ではどうしようもないくらいであること、同時に学生にも山の様なカリキュラムがあり、それをこなすのがとても大変であるということだった。会員の中からは「俺達の頃でなくてよかった」という声がかれたのももったないことである。昔は「伝染病学」などが主流だったこともあるが、「免疫学」などは細菌学に付随してちょっと講義があった程度と記憶しています。当地江戸川は千葉と東京を結ぶ中間地点で、20年位前までは、この地で開業される同窓の方が結構多く地元医師会の中でも多数派であり、また論客が多かったものである。しかし時代は変わり千大の卒業生でここで開業する人が減り、多数派から少数派へととなってきた。偏差値教育のひとつの結果と言えるかも知れない。江戸川区全医師四二二名

中、千葉卒業生は38名で他学の卒業生の数の伸びも千葉大卒業生の伸びとは比較にならないようである。最近あのはな会を開いても大部分の人は教授より年上で、教授より若い会員がなかなか集まらなかったのが実状であった。しかし、江戸川区もここ十年来南部へ発展しそちらの方へ開業する方がポツポツ出てきている。最近はそのような方があ

はな会にも出席するようになり、少しずつ若返りが見られるようである。今回もそういう方が出席して下さった

富山あのはな同窓会



富山医科薬科大学眼科の窪田靖夫教授(昭28)の定年退官を記念し、富山あのはな同窓会が2月26日富山市いきいき亭で開催されました。この会はこれまで毎年開かれてきたが、平成5年度の分をこの記念会にあてるため繰りこしてきたもので、毎回金沢や新潟西部の同窓には声をかけて参加してもらうようにしてきました。今回は御都合で金沢からの参加はなかったものの、新潟からの2人、看護学部卒の長谷川さんを含め、19人の出席となりました。窪田教授夫人の窪田叔子前あさひ総合病院院長(昭29)も今度富山を去られることになり、お2人を囲んで二次会まで話

がはずみ、定年退官を祝って記念品を贈り、別れを惜しましました。窪田御夫妻以外の出席者は次の通りです。小西善磨(昭18)、橋益永(昭20)、片山喬(昭30)、辻陽雄(昭33)、長尾竜郎(昭40)、磯村勝美(昭43)、星山圭鉦(昭44)、寺沢捷年(昭45)、浜崎智仁(昭46)、山田均(昭48)、布施勇樹(昭51)、武田憲夫(昭51)、檜山幸孝(昭51)、及川成明(昭53)、伊藤隆(昭56)、山本修一(昭58)、長谷川ともみ(昭63看)。なお、野本昌三(昭32)、加瀬満(昭50)の両先生は所用で欠席されました。(片山喬・昭30卒・記)

東京あのはな会役員名簿

東京あのはな会名誉会長、嶋田宗之(昭9)豊島、永井義三(昭10)板橋、名尾良憲(昭13)東京あのはな会顧問、後藤秀倫(昭10)新宿、久保田正介(昭13)渋谷

東京あのはな会 長	加納 大郎	昭20	太 田	
" 副会長	長沢 仁一	昭24	墨 田	医師会担当
" 副会長	貫洞 一夫	昭22	中 野	勤務医担当

(A) 東京あのはな会支部長 (医師会)

支 部	支部長名	卒	出身区	担 当 区	役職
中 央 支 部	清川 素道	昭16	文 京	千代田、中央、台東、文京、港	庶務
墨 城 東 支 部	長沢 仁一	昭24	墨 田	墨田、江東、荒川	経理
城 東 支 部	山上健次郎	昭17	江戸川	足立、葛飾、江戸川	経理
城 西 支 部	小杉 秀雄	昭24	世田谷	新宿、中野、渋谷、杉並、世田谷、目黒	庶務
城 南 支 部	田中 光	昭24	大 田	品川、大田	庶務
城 北 支 部	大池 和祐	昭24	板 橋	北、練馬、板橋、豊島	税務
三 多 摩 支 部	関根 博	昭26	東村山	北多摩、西多摩、南多摩、その他	総務

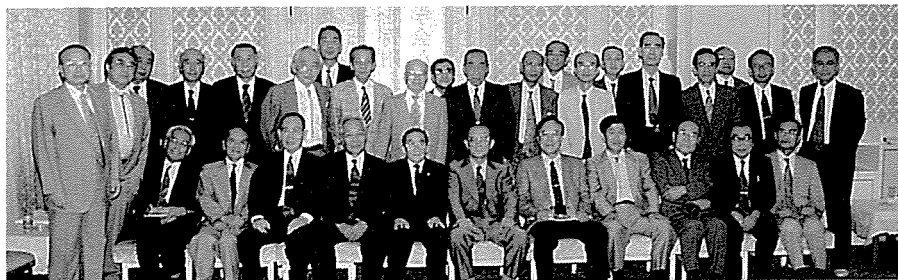
(B) 東京あのはな会 (勤務医支部)

勤 務 医 部 長	小幡 裕	昭28	豊 島	大学、国立病院、都立病院、県立病院、都衛生	総務
副 部 長	新田 実男	昭22	新 宿	局、都保健所、私立病院、準公立病院、その他	庶務

クラス会

もぐら会

(昭和23年卒)



わが、もぐら会がここ数年恒例となった、東京バレスホテルで例会を開いたのは、平成6年9月10日であった。工藤、村田両幹事司会のもと集いし者31名、まずは、前年鬼籍に入った五ノ井哲郎、辻深両君の冥福を祈って黙祷を捧げた。毎年旧友を失うのは辛いが、わが級は戦後転学者を含め131名中、33名を失いしも、4分の3の諸君は尚活躍中であるのは心強い。次いで、前学長吉田亮君より昭和63年より6年間、任期を終えての挨拶があった。即ち総合大学としての長期展望による整備方針の策定、特に医学部の6年間一貫教育のための改革が実施されたことに付き熱っぽく語られた。一同、その功績と御苦勞に大拍手を贈った。続いて、萩原君より最近の医学部内の教授人事その他に付き報告があり移り変わる時代を感じた。お互いの健祥を祝しての乾杯の後、懇親の輪は大きく小さく、人を変えて、和氣霽々として続けられた。学生時代に終戦前後を過ごしたわれわれにとって、明年の戦後半世紀記念への感慨に加えて、古稀を迎えての余生の過ごし方などにつき、個性豊かに、その思う所を語り合った。総じて、与えられるより与えることに、より喜びを感じている話に、人の年輪を思ったの

は小生のみではないと思う。時の流れは無情にして、これを惜しみつつ、再会を来年9月9日、同所と定めて、会を閉じた。次期幹事は、井上正士、西村文夫両君。

出席者 伊東和人・井上正士 有賀光・岩間定夫・上野高次 大津曉・工藤一・黒須吉夫 木村滋・斉藤嘉一・高木紹夫 平岡真・高村良平・奈良四郎 前田裕・西村文夫・堀江昌平 松山茂・松下幸二・高崎隆次 吉田亮・村田晴源・吉岡宏三 吉田充・吉田作・吉牟田重徳 林易・窪田金次郎・山口覚太郎・萩原彌四郎・藤井日出男 (伊東和人・記)

ゐのはな22会

(昭和22年卒)

我々は昭和22年卒業生、ゐのはな会は、殆ど古稀を過ぎた仲間であるが、最近毎年の如く同窓会を行っている。ここ数年は地方同窓生の力をかりて東京と地方で隔年に催している。昨年は東京の帝国ホテルに於て、卒業45周年を記念して恩師故小林竜男教授をお招きし、大いに久闊を叙し、先生も大変な喜びようであった。

本年は都合により再び東京帝国ホテルにて7月16日開催致したが、高齢になると病欠者がふえる一方、夫妻同伴も

卒業50周年 記念クラス会

(昭和19年卒)



多くなり、出席者総数はあまり変わらず盛会であった。我々は久闊を叙し近況を語り合い、昔を偲び談論風発若い気分になり、また奥様同士は一年振りの再会を喜び、今後の健康を祈り合った。尚散会後は恒例の如く、半数以上の方がホテルの一室で、夫妻交えて二次会を開き、旧制高校、大学時代の逸話続出等、あるいは寮歌の合唱等、夜おそくまで歓談を楽しんだ。本年の出席者は次の如くである。

安藤毅・伊賀多朗・居初良雄 石橋祝・神山英明・加瀬幸雄 笠川猛・木村隆吉・清水健三 一井正・石橋文太・有益夫人 前田実・竹内辰五郎 (夫人同伴) 沖真澄・貫洞一夫 内藤徹郎・加藤周・新田実男 平林一郎・今井力・丸山卓次 若月美博 以上32名であった。

病欠の方、都合で欠席の方々の御健勝を祈る次第である。追記として、学年毎の同窓会はみな盛会と思われるが、ゐのはな同窓会総会の出席者は意外と淋しい。せめて最終学歴の同窓会は、もっと盛大にならぬものか、せめて理事評議員の諸子に郵送で総会の案内を出し、同級生を誘い出すよう努力出来ぬものか、執行部の一層の御奮闘を期待すること切である。

(若月美博・記)

私共のクラスは今年9月30日を以て卒業後50年を迎えた。戦時中のこととして3年半の早産児で卒業、軍に駆り出されたのである。従って卒業式は全国医歯薬科系大学の多数の学長参列のもと、陸、海それぞれの軍医学校々庭に於て行われ、卒業証書を頂いたわけである。1年足らずの軍職から復員。終戦後は幾多の困難を体験しつつ今日に至ったのである。慙愧に耐えないのはクラス唯一の戦死者として神寅雄君が潜水艦と共に大海に没したことである。それから50年アツという間に過ぎ去ったようにも思う。いづれにせよ今年は卒業50年記念クラス会と銘打って開催することになったのであるが、当初の連絡では生存者38名中

(井出源四郎・記)

三
五
会

(昭35年卒)

●平成3年度年次会を同年3月9日に筑波山麓の「江戸屋」で、長谷川鎮雄、岡村隆夫、軽部達夫、横山孝一君ら茨城県在住の会員の世話により開催した。写真左で藤村真示が掲げているのは、前年度、卒後三十周年を記念して百万円を寄附した財団法人猪之鼻葬学会からの感謝状(平成3年

1月21日付)である。翌日、ゴルフ組は、早朝に出発し、残りは筑波山に登った後、長谷川鎮雄君の案内で筑波大学を見学した。

(平成7年3月4日、浦安ブライトンホテルの予定)を期して別れた。(平成6年12月19日、藤村真示記)

●平成4年度年次会は同年6月20日に両国の「吉葉屋」にて、東京在勤の永島敬士、草刈隆、草野史郎、田中明、永田一郎、村田光範君らの計らにより開催された。永島君のいう、折からのブームにあやかった「ちゃんこ鍋」もそ

●平成5年度年次会は同年6月9日にパレスホテル大宮にて埼玉県在住の阪信、永田一郎の両君が幹事となり開催され、故岩崎勇、各務正暉両君の夫人を招待し、浦和在住の歌手吉武まつ子さん(写真下、前列向かって左より五番目、同右端はピアノの渡辺美代子さん)に「日本歌曲」を唄ってもらい、暫しナツメロ気分浸った。

●平成6年度年次会は神田敬、藤村真示の常任幹事が、同年9月17日にホテルニューオオタニ幕張で開催した。会員各自が益々多忙となり、会の名に因んで年次会をこれまで3月5日をめに開催してきたが、年々遅れ、今年は遂に9月になった。それでも二十五名の会員が集まり、来年の卒後三十五周年記念の会



千葉大学医学部 八十五年史 百周年記念誌

右の記念誌に残部がありますので、希望者には進呈いたします。詳しくは事務局(内線五〇二六)にお問い合わせ下さい。

祝 平成六年叙勲

勲三等旭日中綬章

長井和行(昭24卒)

山中 和(昭24卒)

勲四等旭日小綬章

西堀乙彦(昭23卒)

高木紹夫(昭23卒)

勲五等双光旭日章

鈴木元一(昭15卒)

吉田亮前千葉大学長

退官記念式典開催される

公衆衛生学講座教授 安達 元 明(昭38卒)



作千葉大学長、渡邊昌平(昭20卒)、宇野俊一(文学部)両名が教授および北川定謙元厚生省保健医療局長(昭31卒)が祝辞を述べられた。記念品贈呈の後、吉田先生から当日の出席者にまつわる高等学校、大学在学中から学長在任に至る思い出話が披露された。

次いで、下村由一千葉大学付属図書館長(文学部)による記念講演「歴史の転換期と大学の使命―ベルリン大学を例として―」が行われた。

平成6年10月22日、ホテルニューツカモトで、吉田亮前千葉大学長の退官記念式典および祝賀会が千葉大学部長会議の主催により行われた。式典終了後、新美仁男教授(昭33卒・小児科学)の司会で祝賀会が行われた。学内外より三百を超える人が集い、盛会を極めた。

なお先生には健康にも恵まれ、附属図書館で大学改革史を編集中等である。

「異常心理学」

石田武著の出版について

本学を昭和21年に卒業され、精神科医として長年臨床に携われ、後に中央大学教授を務められた石田武先生が学生の講義録を補正修正された「異常心理学」(そうぶん社出版)を1994年8月上梓されました。490頁におよぶ精緻な歴史的考察を踏まえた大著であります。精神科医はもとより関連領域の先生方には是非とも一読をおすすめしたい著書の一つです。なお、著者のご好意により千葉大学本部図書館および医学部分館に寄贈させていただきました。(ご希望の方は千葉大学精神医学教室柳橋にご連絡下さい。)

「千葉大学医学部同窓会名簿」

(平成五年版)

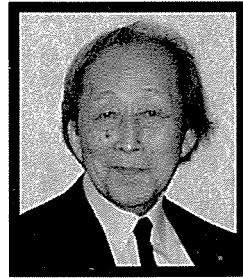
新名簿(定価は送料込みで三千円)ができております。購入ご希望の方は、同窓会事務局(内線五〇二六)にお申し込み下さい。

会費納入についてのお願い……本年度会費未納の方に振込用紙を同封しましたので、三千円を納入して下さい。なお行きがたいに振込まれた方、または会費免除の方(卒後五十年経過の会員および名誉会員)、銀行振込の方に届いた場合は、ご容赦下さい。

千葉大学名誉教授

故 小林龍男先生を偲んで

村山 智(昭26卒)



小林龍男名誉教授は平成六年八月十四日、千葉大学医学部附属病院にて、骨髄性白血病のため八十九歳の生涯を安らかに閉じられました。

先生は昭和七年に千葉医科大学を卒業、薬理学を専攻され、昭和十五年には助教に任じられましたが、その前後に軍医として中国各地を転戦されました。昭和二十一年に教授に昇任されましたが、太平洋戦争敗戦後のご苦労は公私様々にわたり、多くの困難に耐えられて空襲により焼失した薬理学教室の復興、発展に努力されました。

千葉大学評議員、学生部長、医学部長その他、母校に関わることのみでなく、大学内外の数々の要職を果たされ、昭和四十五年に停年退官、名誉教授になられました。その後昭和五十一年まで杏林大学医学部教授をつとめられました。

先生は少ないフランス学派の薬理学研究者の一人であったこと、また中枢神経系と薬物との関係に注目されたことがその生涯の特徴を形作ったとみられます。

トランキライザーという言葉もなかった頃、フランスから「4560RP」なる薬物を導入され、私もその作用機序探索のお手伝いをしました。これがのちのクロルプロマジンで、トランキライザーの原点になったのです。日仏医学会の会長もつとめられたりした功績が認められ、フランス政府よりレジオンドヌール勲章、同オフィシエ章を受章されました。

すでに昭和五十年に勲三等旭日中綬章を受けていられたことが、ご他界後には従三位が追贈されました。

先生の柔和な講義ぶりを記憶されている方が多いと思います。「実験動物の自然の姿をよく見ておかないと、脳に薬物がどのように作用するかは見極められません」とよく学生に語られました。先生の教育、研究の姿勢を示す言葉として回顧しています。

この記は薬理学の中谷晴昭

教授、同窓会編集長の嶋田裕教授のおすすめで書くことになりましたが、筆をとるとなると多年先生の膝下にあつた者として身が固くなりました。その時「追悼の記はさう気なく書くものです」との先生のお声があつた様な気になりました。以下思いつくままに書かせていただきます。

『先生とはんべんのこと』

現職時代の先生の昼食は長く、またかなりの量を召し上がりました。焼いたはんべんが大好きであつたようで、これだけは自分でコンロに金網をのせて丁寧に焼かれました。今になって私自身でははんべんを焼いてみるとコツがあることが分かりました。

『先生とさり気なきのこと』

先生は大きな看板が気になるようでした。例えば記念講堂への方向指示看板など余りに小さくて踏みつける人が多かったのですが、「こう言うものはさり気ないのがよい」と主張されて変えようとはされませんでした。ある学会の前に理髪に行ってきたら、「学会が済んでから行けばよかった」と言われました。学会発表の壇上に床屋帰りですといつた若僧が立っているのはお嫌いだつたのでしょう。それで私は先生の葬儀にも七七忌法要にも髪の毛は伸ばしたま

まに参席しました。

『先生のざりざりのこと』

先生と列車を共にして一番困つたのは発車寸前にしか現れないことでした。東京駅で新幹線がやがて発車だと落ちつかなくなっていると、「いやーそのデパートに妙なフランスの品物を売ってしましたよ」などと悠然と来られるのでした。これは行を共にした誰彼もご経験でしょう。

先生はこれ以上は待てない人生列車に「さり気なく」乗られたのだと思います。その時「実は日本橋筋榎町の生まれではなく、生まれは秋田県で、育つたのが日本橋だったのですよ」とこれもさり気なく呟かれたと思います。

法名は「仁厚院法徳日龍居士」で墓所は江東区の唱行院(日蓮宗)にございます。

ご入院以来二ヵ月余、多くの方々にお世話になりましたこと厚く御礼申しあげます。ことに第一内科の皆様には心より感謝申しあげます。合掌。

おくやみ

池田親雄氏(昭10)
内田 豊氏(昭13)
大庭 正氏(昭14)
矢沢 武氏(昭16)
佐久間武司氏(昭17)
稲垣秀雄氏(昭19)
榎本英男氏(昭19)
前田 博氏(昭19)

永井浩三郎氏(専20)
井上 清氏(昭20)
篠崎幸三郎氏(昭21)
椎名富衛氏(昭22)
竹内 大氏(昭22)
辻 潔氏(昭23)
中村敏昭氏(昭23)

「佛道は人の道」

—心のクリエーティングにこの本を—

船堀今井ビル内関の会で平井禅師が8年間にわたって口述した法話を1冊の本としてまとめ出版することになりました。その内容は「正法眼蔵随聞記」をテキストとしてやさしく禅佛教を解説し、檀家の方々には話しかけるようにお彼岸とかお盆等の起り等にも言及されております。禅師は「コップの中の泥水が時間とともに澄んでくるように坐禅することによって心が無くなり、本当の自分が見えてくる。これは何にもまして心のよりどころになるものだ。」と述べて居られます。平井禅師は6才の時四国雪溪寺にて得度し修業、三島龍沢寺において山本文峯老師の侍者として16年間仕えた後、明治の元勲岡鉄舟が建立した谷中全生庵6世の住職となる。広く佛教伝導に献心し、今日に到って居る臨済宗の重鎮。昨年10月不幸にして病の為遷化されましたが、此の本の題名「佛道は人の道」及表紙の色(水色)は禅師の遺言であります。私は学生時代千葉大学の樹徳会の一員で、和賀老師のもとに参禅して居りました。昭和61年船堀今井ビルを新築した折、畳の部屋をもうけ、職員心の糧として坐禅と法話の会を有志と共に作り出しました。当初より平井禅師にお願いして、江戸川区長さんとかさず参加され、1ヵ月に1回、まる8年となり、この7月で百回となります。いつのまにか自然発生的に「関の会」とよばれ、今でも平井禅師のテープをききながら坐禅しております。心暖まる内容なのでできるだけ広く皆さんに読んでいただきたい。御紹介いたしました。

東京都江戸川区船堀今井ビル内「関の会」事務局
電話 三三六七五・四五六〇
限定出版三千円(送料は実費)
船堀関の会代表 今井力(昭22卒)

牧野一郎氏(昭23)
田波 洋氏(昭25)
戸川信雄氏(昭30)
木下祐宏氏(昭32)
浅野佳徳氏(昭35)
佐藤好彦氏(昭36)
野村庸一氏(昭42)

人事異動

千葉大学

教授昇任

平澤博之(昭41)

救急医学(救急部助教より)

助教昇任

斉藤俊弘(昭41)

内科学第三(同講師より)

鈴木晴彦(昭48)

耳鼻咽喉科学(同講師より)

南 昌平(昭48)

整形外科(同講師より)

講師昇任

伏島賢二(昭52)

冠動脈疾患治療部(同助手より)

他大学

方波見重兵衛(専24卒)

埼玉県立衛生短期大学学長

国立病院

勤務医師名簿

千葉県がんセンター

センター長 鈴木通也(昭31)婦

(一面続き・平澤博之教授就任挨拶続き)

には大変よいシステムであつたと思ひますし、今後もこのシステムを継続させて頂きたいと思つております。救急車で搬入される各種三次救急患者に对应しつつ、救急部・集中治療部に第二外科から移りましてからこの十年間ずっと研究のメインテーマとしてまいりました多臓器不全の病態の解明やそれに立脚した治療

心よりお願い申し上げます。

医療局長 吉田 豊(昭32)麻酔
研究局長 崎山 樹(昭39)生化学
診療部長 藤田昌宏(昭34)消化
診療部長 嶋田文之(昭37)頭頸
部長 長山忠雄(昭38)泌尿
重田英夫(昭31)臨検
末吉貴爾(昭36)脳外
油井信春(昭37)核医
林 学(昭39)画診
吉原暉文(昭40)婦人
渡辺一男(昭41)消化
河崎純忠(昭44)麻酔
館崎慎一郎(昭46)整
松崎 理(昭46)病理
木村秀樹(昭48)呼吸
石田逸郎(昭41)呼吸
間山素行(昭44)画診
宮内武彦(昭46)泌尿
丸岡正幸(昭50)泌尿
炭田正俊(昭53)消化
山本 宏(昭53)消化
難波宏樹(昭54)脳外
大崎達也(昭55)婦人
石井 猛(昭56)整外
岩井直路(昭57)呼吸
後藤成正(昭58)血化

医 長 岩立康男(昭58)脳外
池田政文(昭58)画診
関谷雄一(昭59)放治
藤里正視(昭59)麻酔
西川泰生(昭59)泌尿
小松梯介(昭60)病理
片橋立秋(昭61)頭頸
須藤知子(昭61)麻酔
熊谷匡也(昭62)血化
中世古知昭(昭63)血
傳田忠道(昭63)臨検
鈴木 実(平1)呼吸
阿部 功(平2)整外
医 師 横山孝一(昭35)外科
洲上 隆(昭36)呼吸
漆原 徹(昭48)外科
石田 裕(昭50)内科
岩崎良太郎(昭38)産
神谷 努(昭41)産婦
野本靖史(昭60)呼吸
高地 明(昭61)麻酔
副院長 大井利夫(昭35)整外
一戸 彰(昭45)内科
宇堀晴康(昭52)内科
品川 孝(昭52)内科
須田啓一(昭52)内科
飯野康夫(昭53)内科
小池正造(昭53)外科
佐野隆久(昭60)外科
大西正康(昭52)整外
矢作龍二(昭59)整外
畑 芳春(昭61)整外
高原正信(昭57)泌尿
高橋義彦(昭61)内科

医長心得 宮澤 浩(昭63)放射
長谷川茂平(平4)内科
岡屋智久(平4)外科
小山忠昭(平1)整外
小笠原明(平3)整外
安藤 健(平5)放射

千葉県救急医療センター
センター長 野口照義(昭32)外科
医療局長 角田興一(昭40)内科
部長 伊東範行(昭44)麻酔
渡辺義郎(昭44)脳外
佐藤 章(昭46)脳外
石川隆一(昭49)外科
中村達雄(昭56)麻酔
松本京一(昭50)外科
沖本光典(昭50)心外
中村 弘(昭53)脳外
小林繁樹(昭54)脳外
石橋 敏(昭55)外科
三上春夫(昭57)外科
景山雄介(昭58)脳外
古口徳雄(昭60)神内
小林英一(昭61)脳外
宮崎義也(昭61)内科
木村直弘(昭61)形外
向井宣秀(昭62)外
田垣内祐吾(平元)麻
勝見 明(平2)整外
高見 徹(平2)内科
坂下美彦(平3)麻
鹿間 毅(平3)内科
安福和弘(平4)肺外
浅海 直(平5)内科

四金会・常任理事会
開催のお知らせ
常任理事会
日時 平成7年2月22日(水)
午後4時より
場所 いずれも同窓会館一階
会議室

平成6年度第2回
の は な 同窓会
常任理事会議事録
日時：平成6年11月30日
場所：同窓会館一階会議室
議事内容
一、会計監事の交替について
小野清四郎監事より辞任の
申し出があった旨、嶋田常任
理事より報告があり、同監事
の辞任が了承された。後任の
監事は東京支部より推薦を受
けること、交替は次回総会で
承認を受けることとした。
二、財政基盤強化について
清水、佐藤(甫)両常任理事
より、小野監事より提案され
た案に基づき会費の徴収方法
の変更などについて検討委員
会を設けるとの提案があった。
審議の結果、庶務担当理
事が検討し、次回常任理事会
へ提案することが了承された。
三、の は な 同窓会賞について
嶋田常任理事より、同賞の
選考規定案について説明があ
り、事業担当理事が検討する
ことが了承された。
四、東日本医科学生総合体育
大会定期大会への援助について
清水常任理事より第38回の
同大会が明年千葉大学医学部

四金会
日時 平成7年2月22日(水)
午後5時30分
場所 いずれも同窓会館一階
会議室

が主管することとなり、同窓会
へ援助の要請があった旨説明
された。審議の結果、本会の収
支状況に余裕があれば50万円
を寄付することが了承された。
五、学会への助成について
小杉常任理事より、本学教
授が主催する学会の総会、関
東地方会へも助成金を出すこ
とが提案され、事業担当理事
が各種の助成について検討す
ることが了承された。
編集後記
約二年間本会報の編集に携
わり、年間の記事の配分がつか
めてきました。しかし余りに
形式的になった気がします。
同窓会事務局には過去(戦
前から)の会報が保存されて
います。古い会報には学内方
のニュースや論説がありま
す。論説は当時の教授や医大
学長(医学部長)により書か
れ、世相を反映していると同
時に現在にも共通する点があ
り、興味深いものがあります。
編集委員会では会報のあり
方について検討して行きたい
と思ひますが、会員のご意見
もお寄せ下さい。(嶋田 裕)